平成 31（2019）年度　くるべ古代歴史館春季企画展

壬申の乱ゆかりの地Ⅱ
～宇陀・阿騎野（あきの）～

写真：復元された中之庄遺跡（阿騎野・人麻呂公園）　宇陀市教育委員会

壬申の乱と阿騎野

「東の野に炎の立つ見えてかえり見すれば月傾きぬ」（『萬葉集』巻１－48）

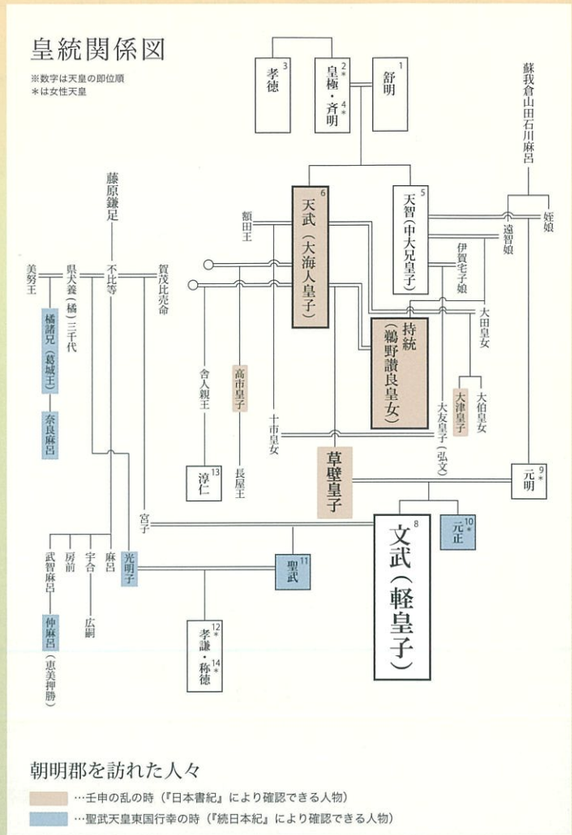
柿本人麻呂が詠んだ大変有名なこの歌は、持統６（692）年11月に草壁皇子の子である軽皇子（のちの文武天皇）が阿騎野で猟りをした際に同行して詠んだ歌の一首です。

なぜ、この場所が選ばれたのでしょうか。

時は大海人皇子と大友皇子が皇位継承をかけて争った壬申の乱に遡ります。『日本書紀』によると、天武天皇元（672）年６月24日、吉野宮を発った大海人皇子の一行は、阿騎野の中心部である菟田吾城に到着したところで、初めて食事を取ることになります。食事を提供したのは、屯田司舎人土師連馬手でした。

その後、更に歩みを進め、菟田郡家では湯沐（所領）の米を運ぶ伊勢国の荷駄50匹に遭遇したので、米を捨てさせ一行は馬に乗り、伊賀を経て鈴鹿を越えて、ようやく朝明郡に至り、迹太川で天照大神を望拝します。朝明郡に入ると、大津皇子が合流し不破を固めたことなどの吉報が入ったことを受け、朝明郡家では各地で兵をおこさせます。この時、派遣されたうちの一人が、菟田吾城で食事を提供した屯田司舎人土師連馬手でした。

吉野を出発して、初めて食事を提供された場所である菟田吾城の主要施設が、宇陀市中之庄遺跡と考えられています。



中之庄遺跡全景（南上空から）　宇陀市教育委員会

菟田吾城と中之庄遺跡

中之庄遺跡は、奈良県宇陀市大宇陀に所在する飛鳥時代（７世紀後葉～末）の遺跡です。掘立柱建物11棟、竪穴住居３棟、石敷きの溝や池などから構成される苑池状遺構が発見されています。宮廷的な施設であった可能性が指摘されており、阿騎野の中心部分である菟田吾城の主要施設と考えられています。

文祢麻呂墓の発掘調査　奈良県立橿原考古学研究所

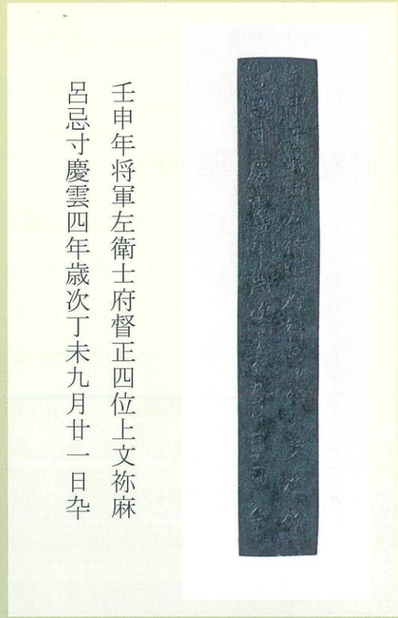
文祢麻呂墓　奈良県立橿原考古学研究所

文祢麻呂の墓

『日本書紀』によると、文祢麻呂は壬申の乱の際、大海人皇子の舎人として吉野宮での挙兵時から従軍した数少ない側近の中の一人であり、『続日本紀』には功績を称える記載があります。

墓は奈良県宇陀市榛原八滝に所在します。天保２（1831）年10月頃に畑の掘り返し中に銅箱に入った墓誌とともにガラス製骨蔵器とその外容器である金銅製壺が発見され、地元の竜泉寺で保管されていましたが、今日では国宝に指定され東京国立博物館が所蔵しています。

また、地元では出土時点の伝承地が維持管理されていましたが、次第に場所が正確にわからなくなったことから昭和57年に発掘調査が行われ、その結果2.5m×2.0mの範囲で炭を敷いた墓坑が発見されました。炭の中から鉄釘が出土したことから、木箱に納めた骨蔵器を炭の中に安置し、周囲に粘土を積み上げて覆っていたものと考えられています。



文祢麻呂墓　墓誌（レプリカ）
宇陀市教育委員会

文祢麻呂墓　銅箱（レプリカ）
宇陀市教育委員会

文祢麻呂墓　金銅製外容器・ガラス製骨蔵器（レプリカ）
宇陀市教育委員会

文祢麻呂墓　ガラス製骨蔵器（レプリカ）
宇陀市教育委員会

阿騎野と行幸

壬申の乱の戦いに勝利した大海人皇子は、翌天武２（673）年、天武天皇として飛鳥浄御原宮で即位し、律令による中央集権国家の建設を目指します。その後、天武９（680）年３月には、菟田吾城に行幸しています。この時には、草壁皇子も同行していたことが柿本人麻呂の歌から知られており、前年の５月に吉野での草壁皇子を皇嗣として相争わないことを誓わせた「吉野の盟約」と並び、壬申の乱のゆかりの地に行幸したことが分かります。

更に、持統６（692）年には、軽皇子（後の文武天皇）が菟田吾城で遊猟しています。軽皇子は壬申の乱の際に同じ年ごろで従軍した父の草壁皇子を偲(しの)んで、この阿騎野を訪れたと考えられています。この際に詠まれた歌が冒頭の歌であり、阿騎野は天皇や皇族が繰り返し行幸を重ねた政治的・軍事的に重要な場所でした。

阿騎野と薬狩り

『日本書紀』によれば、推古19（611）年５月５日に菟田野で初めて薬狩りを行ったことが知られます。菟田野は宇陀野（宇陀の大野）であり、阿騎野のことを指すと考えられています。薬狩りは５月５日に行われた宮廷行事であり、男性は薬効の大きい鹿の角をとり、女性は薬草を摘んだとされます。

宇陀は『萬葉集』に「宇陀の真赤土(まはに)」と詠われているように水銀（辰砂）の産出地として知られていました。その開発は古く３～４世紀には古墳で多量に消費される水銀朱の精製が宇陀市戸石(といし)・辰巳前(たつみまえ)遺跡で行われていたことから、初期ヤマト王権と密接に関わってきた土地であることが指摘されています。

水銀は不老不死の仙薬と認識されていましたが、猛毒であるため直接は体内に摂取できませんので、水銀を産出する地で取れるものを間接的に取り込むことにより霊力が宿ると考えられていました。

だからこそ、神仙思想の観念から古来より、宇陀・阿騎野の地は政治的・軍事的に重要な場所と認識されていたのです。

戸石・辰巳前遺跡水銀朱付着資料
所蔵　奈良県立橿原考古学研究所
写真提供　奈良県立橿原考古学研究所附属博物館

久留倍官衙遺跡公園　平成31(2019)年度　くるべ古代歴史館春季企画展

壬申の乱ゆかりの地Ⅱ
～宇陀・阿騎野～

会期　平成31(2019)年４月17日（水）
～令和元年(2019)年６月９日（日）
企画　四日市市教育委員会　社会教育・文化財課
発行　平成31(2019)年４月17日